

第 I 章

兵庫県南部地震の概要

I. 兵庫県南部地震の概要

1. 地震の概要

平成7年1月17日(火)午前5時46分52秒、淡路島北部（北緯34度35分36秒、東経135度2分6秒、深さ18km）を震源とするマグニチュード(M)7.2の地震が発生した。

気象庁では、東北地方南部から九州にかけての広い範囲で有感地震を観測した。当初の発表では地震計により計測される最大震度6であったが、その後の被害調査などにより2月7日には、神戸市の東灘区から須磨区の6つの区と芦屋、西宮、宝塚各市、淡路島北部地域等で観測史上初の震度7と修正された(図-I.1.1)。

この地震は、「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」と命名され、人口350万人余が密集する我が国の経済活動等の中枢を担う阪神都市圏で発生した「都市直下型地震」であった。この地震により、ライフライン、鉄道、道路、港湾等の公共施設が壊滅的な打撃を受け、地震火災の同時多発的な発生などにより、その被害は極めて甚大なものとなった。死者は6,310名、負傷者は38,495名(平成8年10月末現在)にのぼり、建物では236,000棟以上の家屋が全半壊あるいは全半焼するなど住民生活や産業活動に大きな支障を与え、「阪神・淡路大震災」とよばれるものとなった。

この被害は、昭和23年(1948年)の福井地震(M7.1、死者3,769名、負傷者22,203名、家屋全壊36,184戸)を大幅に上回り、戦後では最大級、今世紀の地震災害としても大正12年(1923年)の関東大地震(関東大震災:M7.9、死者・不明14万人余、被害家屋70万戸余)に次ぐものである。

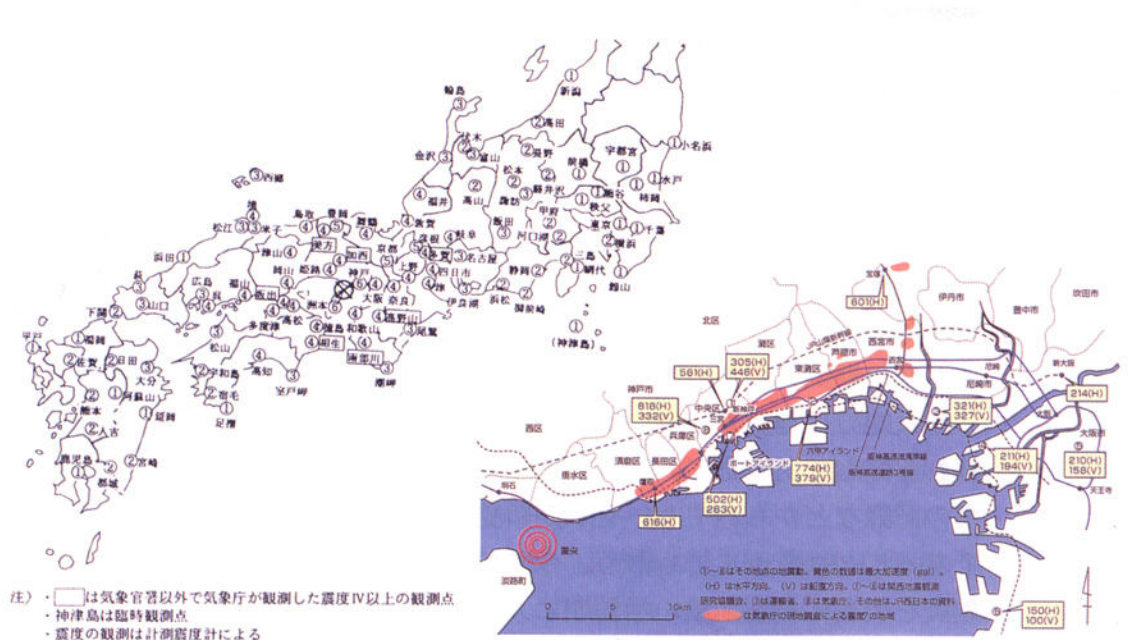


図-I.1.1 各地の震度と震度7の地域分布(気象庁等による)